

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170300269		
法人名	医療法人 智盛会		
事業所名	グループホーム 桃の香		
所在地	岐阜県 美濃市もみじヶ丘 2丁目45番地		
自己評価作成日	平成22年09月08日	評価結果市町村受理日	平成23年1月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170300269&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成22年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

居心地の良い雰囲気づくり ~ その方一人一人を大切に ・誠意は人の道なり、全ての仕事にまごころを。 ・和は力なり、共に信じて結束を。 ・創意は進歩なり、常に工夫と改善を。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「居心地の良い雰囲気作り~その方一人一人を大切に~」の理念を意識しながら、全職員は、日々の支援に取り組んでいる。管理者は、救急治療に従事した看護師の経験を活かし、利用者の状況把握や介護計画に沿った介護が出来るよう工夫した個別記録を作成している。ホーム会議でも利用者個々の状況を医師の指示も含めて職員間で支援の細部まで検討・共有し、出来るだけ利用者に関わる時間を多くし、状態の把握や意向を尊重しながら支援を行っている。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づきその人なりの生活を重点に置き、共に共有できるよう心掛けている。	社是・社訓・事業所理念を職員の目に付く場所に掲示している。社是の「誠実を旨とし、心のこもったサービスを持って地域社会に貢献する」事の意義を理念に込め、管理者や職員は日々の介護で実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア等の協力を伴い地域の方たちに回覧板を回してもらったり、掲示板にポスターや案内を貼ったりして交流を図れるようにしている。	ボランティアや小学生の定期的な訪問がある。地域の祭りの神輿作りに使う和紙のこよりを利用者が作り、祭りの一役を担っている。地域交流の呼びかけをしているが、戸数が少なく若い世代の新興住宅地で関心が薄く、努力が実っていない。	運営理念の中に、「創意は進歩なり、常に工夫と改善を」とあるように、地域とのつきあいについても視点を変え、様々な場面で機会を作り、更に交流が深まる事を期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアマネジャーのキャリアパスに伴い地域の交流に向け活かせるように窓口を開いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員の要望、評価を元により実践に近づけられるよう常に話し合いを行なっている。	定期的に運営推進会議を開催し、運営や利用者の現状を報告し、意見を聞いている。推進会議委員(民生委員)の仲介で地域のボランティアや祭り参加への成果があるが、外部委員の参加が少ない。	会議内容も充実しているが、地域の中にある事業所であり、外部委員は多方面から参加を募り、意見をサービス向上に繋げて頂きたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者と連絡を取り合いながら、より高いサービスを提供できるよう取り組んでいる。	認知症講師の講習を受け、市内で認知症サポーター養成講座開催予定である。事業所の運営や困難事例についても、市と協議しながら、指導や助言を受け、解決へと導いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	感情の起伏のある入居者の状態を確認しながらリビングの窓などを開放したりしているが、まだ扉まで開放には行き着いていない。	拘束の弊害を職員は理解し、拘束をしないケアを心掛けている。利用者の思いを受け止め、声かけや見守りをし、気分転換に併設のデイや散歩に出かけたり、電話で家族の声を聞く支援をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し知識を高め、高齢者虐待に対し見過ごさないように心掛けているが、常に寄り添い行動の把握ができれば自ずと虐待には結びつくようなことにはならないと思われる。		

グループホーム 桃の香

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に研修会に参加し、理解を深めその方一人一人を大切に、関係者からのアドバイスを元に活用できるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	身内を施設に預けることは家族にとっても不安でありストレスも生じること、それを取り除くことはかなり難しいのが現状である、その為入居時の説明でより深く納得して頂けるまで職員と家族で話し合いをし、お互いの信頼関係を構築していくことが先決であると思われる。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営委員会を隔月で開き、意見や要望を伝え話し合い、それらを反映できるように心掛けている。	要望や意見を言い易い雰囲気のお喋りパーティやわいわいランチを催している。来訪時や運営推進会議での意見等は、ホーム会議で職員に周知・検討し、利用者や家族の思いに添う支援を心掛けている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回スタッフと会議を開き意見や提案などを聞く機会を設け、常に発言、発表できる場を提供し全員で共有しあえるようにしている。	管理者・職員双方が信頼し、意見や要望が言い易い体制になっている。介護方法の意見等は皆で検討・実践し、補修や物品等の意見は、管理者から運営者に相談している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は、常にやりがいのある職場環境、条件など必要に応じ職員の安定、安心に繋がるよう心掛けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上に留意し、研修会等の参加を促し、常に疑問に思ったことなどはその場で解決できるようその都度説明するよう心掛けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営委員会委員に他施設の管理者も参加しており、交流を深め情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めて生活を共有するに際し、不安の解消に努め安心して生活を送れるよう関係作りに力を入れている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定時及び生活をしている時でも、常に家族に話しかけ情報の共有、不安の軽減に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴を把握し、家族からの情報を元に早期理解し他のサービスを提供できるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	24時間体制のため、共に生活する者として本人の立場に立ち関係を深められるよう努力している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年数回家族会を実施し、本人と家族を交えて食事会を開き共に友好を深められるようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方たちなどの面会などは、事前に了解を得ているためいつでも面会できるようにしている。	知り合いや同僚の訪問があり、家族が迎えに来て日中を自宅で過ごす人もある。病院受診の付き添いと衣替えは関係が途切れないようにとの思いから家族にお願いし、又利用者の孫や幼稚園児の訪問は利用者全員の喜びであり、来訪を歓迎している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員が関わり、声掛けをして一つの輪が作れるように心掛けている。		

グループホーム 桃の香

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	キャリアパスの導入に際し、今後は必要に応じケアできる体制を構築していく。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その方一人一人を大切に」を基本方針として、その方にあった生活を送って頂けるように努力している。	家族の情報や利用者の仕草・表情から把握したり、個別記録の記入方法を改善して職員と利用者が関わる時間を多くし、一人ひとりの思いの把握に努めている。困難な時は相性の良い職員が穏やかに対応をして意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活の中で見慣れた家具、衣類など極力その人らしい生活が出来るように心掛けている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活を共有する中で生活歴の把握に努め、現状にあった過ごし方に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーのプランの立案に対し職員の理解を深められるように、その都度状況に即した計画を作成している。	ケアマネージャーが利用者や家族・職員と話し合い意見を反映させて作成している。介護計画には日常的な事も大切と、業務日誌や個別記録からの情報はリーダーから伝えている。介護計画は職員も共有し、日々の介護で実践している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践に際し、個別記録の記入方法(フォーカスチャータリング)を取り入れ、より記入時間の簡素化、それにより入居者との関われる時間が長く取れるようになり、より深く関係を共有できる。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	物事を一つと捉えず、常に化する状況を受け入れられる余裕を持つことにより状態の変化に対応できる柔軟性が生まれてくる。サービスの向上や多機能に対応するには、職員の多様化が必要とされてくる。		

グループホーム 桃の香

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常に心身の安定をはかり、豊かな生活を送れるように支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度往診があり、身体症状の把握および全身状態を理解することにより適切な医療を受けられるように支援している。	主治医は母体医療法人の医師で、定期的な往診がある。かかりつけ医や専門医・歯科の受診には、家族が付き添っている。家族の代わりに付き添う時もあり、いずれの場合も受診結果は共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や異常など気付いた点があれば主治医に報告して指示を受けられるようになっているため、すぐ対応できるようになっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携が確率されているため、病院勤務ケースワーカーや訪問看護施設との情報交換を行なっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢化していく中で、今後緊急を要する状況に陥った場合のために書類を作成し、家族の同意を受けている。	重度化した場合の利用者や家族の思いを聞き、事業所としての対応を入居時に話し合うと共に、緊急を要する状況には利用者の救命を最優先し、医療機関移送への同意文書を作成している。職員の資格と勤務時間帯を考慮し、出来る事出来ない事を説明し、家族や職員も方針を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応として、即座にバイタルサインチェックを行い、その後すぐ主治医もしくは救急対応するようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行ない、1回は立ち入り訓練でありその都度指導を受けながら職員一人ひとりが身に付くようにしている。	消防署の立ち入り検査と避難訓練の指導を受け、再度ホーム会議で復習し、緊急時の行動の意識付けをしている。調理器具はIHに替え、スプリンクラーの設置も予定し、緊急設定の抜き打ち夜間避難訓練も行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の職員が全ての仕事にまごころを持って対応しており、「その方一人一人を大切に」対応することを心掛けている。	尊厳を大切に、言葉掛けや、個人情報に配慮し「その方一人一人を大切にする」理念に添った介護を心掛けている。記録記入方法の改善で職員は利用者に関わる時間が多くなり、ゆっくりと最後まで話を聞き、利用者が納得出来るまで対応をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が常に声を掛け、関わりを持ち少しでも早く自己表現できるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の行動を把握し、職員が常に創意工夫と改善に心がけて、できるかぎり希望にそように努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後必ず気に入りの衣類に更衣し、自宅と同様の生活を送れるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事バランスに注意し、入居者が満足できるような料理を心がけている、料理を作る際手伝ってもらえる入居者には手伝ってもらい一つでも多く楽しみを増やしていくように関わっている。	旬の材料を献立に取り入れ、利用者にはイモの皮むきや豆の筋取り・食器洗いや片付けを手伝っている。職員と一緒にテーブルについて会話をしながらの食事風景は和やかである。時には中庭でバーベキューをする等の工夫をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	上記同様バランスに注意し、往診時検査結果を主治医より報告されるためその結果に応じ指示を受けながら献立に取り入れ常に体調を整わせている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず口腔ケアを実施し、常に口腔内の清潔を保つように支援している。		

グループホーム 桃の香

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めてトイレ誘導を行い、無駄にオムツ等を極力使用しないように自立に向けた支援を行なっている。	見やすい場所に排泄チェック表とバイタルチェック表を貼り、職員全員がトイレ誘導できる体制になっている。布パンツ使用を目標にして、童謡を歌いながらリズムに合わせて誘導する等個々の状況に合わせた自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が3日を過ぎた頃よりヨーグルトや整腸剤などを使用して、身体に負担がないように排便を促すように支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に好きな時間帯で入浴してもらえるように実施しているが、時には時間がかかるようであればやむおえず時間内に行なえるように入居者に了解を得て入浴してもらっている。	入浴拒否の利用者は、話を合わせたり、好みの入浴剤を入れる等の工夫をしている。足にむくみのある方は、毎日の入浴に努め、利用者の体調に合わせた緊急時の医薬品を常備する等個々に添った支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	当施設では眠剤を使用していないため、極力昼間は起きてもらうようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示で薬が変更または増量した場合必ず状態の変化を見逃さないように注意深く管理し、異常があればすぐに管理者もしくは主治医に報告するよう対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションに参加したり、歌や塗り絵などを実施して気分転換を図るようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候にもよるが散歩やドライブに出かけたりしながら季節を楽しんで頂いている。	職員との散歩や、近所のコンビニへお菓子や日用品の買い物に出かけている。景色の良い場所や喫茶店に車で出かけたり、病院受診等のついでに家族と食事や自宅への立ち寄りの外出もしている。又併設のデイへは玄関から出かけ、外出気分を味わっている。	

グループホーム 桃の香

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に現金はもっておらず、管理している状態ではあるが今後は少しずつ持てるようにしていきたい。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末などは、年賀状を自ら書いてもらい家族に送ったりしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏冬にこだわらず、換気を必ず実施しているため空気の入替えを行い季節を感じてもらっている。	食堂から季節を感じる木や花のある中庭が見える。利用者は自由に冷蔵庫から飲み物を取り出したり、戸棚から器を出したりし、来訪者を明るく「どうぞどうぞ」と招き入れる様子は自宅のような居心地の良さがある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、畳の間を常に開放しているため、入居者同士が談笑しているところをよく見かけている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団、家具など見慣れたものを使用し、安心できる居心地のよい空間を提供し、より良い場作りを心がけている。	家族写真や孫・曾孫の描いた絵を飾り、布団も使い慣れた物で、家族の用意した季節の衣類や利用者の好みの色のソファが置いてある。目の不自由な利用者のドアの取っ手に布を巻き、自室が判る様にして安心出来る工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が常に工夫と改善を促しできるだけ安全で自立した生活が出来るよう工夫している。		